

# まちの看板

—湖山街道・若桜街道・鳥取南バイパス—

【指導教員】 茨木 透 中 朋美

【学 生】 落合 麻衣 音泉 寧々 木島 祐佳 酒井 鞠乃 陳 永強

土肥 瑞穂 藤森このみ 水田 拓海 山崎 七重

## 1 はじめに

近年、様々な看板が街の中で目につくようになった。看板には、それぞれ業種、設置場所、色、文字などの個性があり、決して一律ではない。その中で、どのような規則性があるのか、また、看板を比較することでどのような差異や特徴を見出すことができるのかということに興味を持ち、調査を開始した。

看板の調査方法としては、鳥取市内の3つの街道を実際に歩き、設置されている看板を1つ1つ撮影した。その後、その写真をもとに、店舗の情報や看板の特徴に関する12項目のデータを集計し、店舗の業種、立地場所によってどのような特徴を持った看板が多いのか、また、看板がいかに効果的に使用されているのかを分析した。3つの街道において看板を調査し、分析を行った後、私たちの調査と看板に関する先行研究を比較し、考察を行った。12の調査項目は、以下の通りである。

- (1) 業種
- (2) 個人店/チェーン店
- (3) 大きさ
- (4) 設置高
- (5) メイン/サブ
- (6) 色
- (7) 電飾の有無
- (8) 言語の種類
- (9) 文字の種類
- (10) 書体
- (11) ロゴの有無
- (12) 老朽化の有無

調査項目のうち、(1)、(2)は、看板が設置してある店舗に関するデータである。(3)から(5)のデータは、看板の物理的な情報である。(6)、(7)は、看板の視覚的な情報に関するデータで、(8)から(11)は、看板の文字情報に関するデータである。そして、(12)は、看板の状態に関するデータである。

## 2 調査対象

選んだ街道は、若桜街道、湖山街道、鳥取南バイパスの3つで、市内で看板が集まっていると思われる街道である。中でも若桜街道は、歴史のある街道であり、湖山街道・鳥取南バイパスは、看板が密集している。そのため、これら3つの街道を、調査対象として選択した。

若桜街道は、鳥取市の商業環境を印象付ける重要な商店街である。若桜街道は1952年の鳥取大火によって商店街の大部分が焼失したため、今ある多くの建物が1955年頃に建てられたものになっている。その際、鉄筋コンクリートでできた3階建ての復興ビルを建てることによ

て、防火建築帯として復興再生した。また、1970年に830mにわたるアーケードが設置され(写真1)、以降、現在に至るまで人々に慣れ親しまれてきた。若桜街道は、調査した街道の中で最も古い街道である。

私たちは、2018年6月1日、若桜街道内の鳥取駅から鳥取市役所の間(図1赤線部)約1kmにある計422個の看板を調べた。店舗数は209であり、3つの街道の中で最も店舗数が多い街道であった。



写真1 若桜街道のアーケード



図1 若桜街道の地図

湖山街道は、湖山駅前を通る商業活動が活発な街道である。国土地理院の航空写真を見ると、1970年代後半から80年代前半にかけて現在のようになったと考えられる。若桜街道と比較すると、湖山街道は新しい街道である。また、若桜街道のようにアーケードはなく、様々な看板が屋外に並んでいる。

2018年5月18日、私たちは、湖山街道内の湖山駅入口から千代川の間(図2赤線部)約2kmにある計298個の看板を調べた。店舗数は133である。



図2 湖山街道の地図



写真2 湖山街道の様子

総計すると、本調査で集計された看板は計1,034個となった。以下では3つの街道の看板について、冒頭に挙げた12の項目ごとにデータを提示し、分析した結果について述べる。



図3 鳥取南バイパスの地図



写真3 鳥取南バイパスの様子

鳥取南バイパスは、鳥取市を通る国道29号バイパスである。1985年に完成し、2001年に津ノ井バイパスと接続して以来、大型店舗や交通量が増加した。今回調査した中では、最も新しい街道である。若桜街道のようなアーケードは無く、交通量が非常に多い。また、背の高い看板が密集している。このように、湖山街道との共通点を多く持つ街道である。

私たちは、2018年11月9日、イオンモール鳥取北店から跨線橋北端の間(図3赤線部)約2.2kmにある計314個の看板を調べた。跨線橋とは、鉄道線路の上にもたがって設けた橋のことである。ここでは、JR山陰本線の上に徳吉跨線橋という橋がまたがっている。前述したように、この街道は、非常に高い看板が多く設置されている。そのため、看板の写真を撮影する際、低い位置に設置されている看板を撮る班と、高い位置に設置されている看板を撮る班に分かれて調査を行った。店舗数は、135であった。

### 3-1 業種

調査した看板を、小売業、飲食業、アパレル販売などの業種で分類した。データを集計して、5%以下となった業種は、まとめて「その他」に分類した。

若桜街道では、飲食業が19%、小売業が19%、アパレル販売が13%、不動産業が5%、美容業が5%になった。比較的、飲食業、小売業の割合が高いことが分かる。

湖山街道では、飲食業が26%、小売業が18%、通信業が5%で、その他の業種が半分を占めるという結果となった。若桜街道と比較すると、より業種に偏りが見られることが分かる。

南バイパスでは、アパレル販売が9%、飲食業、小売業、サービス業がそれぞれ7%、娯楽業が5%となり、業種に多様性が見られた。中でも、自動車販売の割合が20%と比較的高く、自動車販売店の多さが南バイパスの特徴であることが分かる。

3つのグラフを比較すると、若桜街道、湖山街道で飲

食業、小売業が多いのに対して、南バイパスではその2つの業種の割合が低く、自動車販売が多い点が目についた。



写真4 南バイパスでみられる自動車販売店 (ホンダカーズ鳥取 鳥取北店)



写真6 若桜街道でみられる個人店 (Solo)

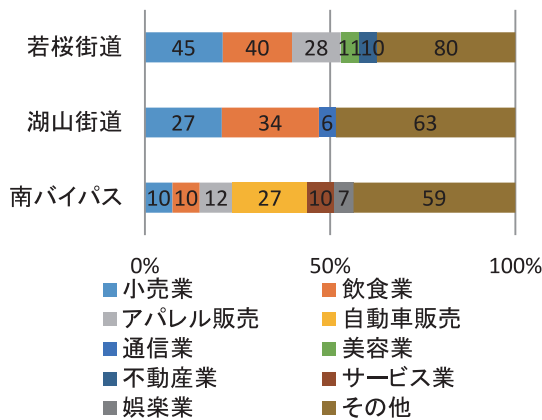


図4 業種

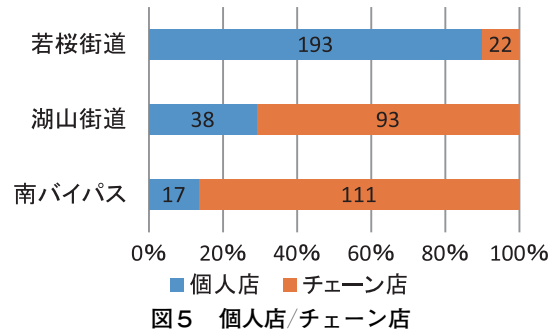


図5 個人店/チェーン店

### 3-2 個人店/チェーン店

若桜街道では、個人店の割合が90%、チェーン店の割合が10%と、個人店が圧倒的に多いことが分かる。湖山街道では、個人店の割合が29%、チェーン店の割合が71%と、チェーン店が全体の7割を占めている。南バイパスでは、個人店の割合が13%、チェーン店の割合が87%と湖山街道よりもさらにチェーン店の割合が高くなっている。



写真5 南バイパスでみられるチェーン店 (トイザラス)

図5に示すように、若桜街道では個人店の割合が圧倒的に多いが、反対に湖山街道と南バイパスでは、個人店の割合が低く、チェーン店が多いという結果になった。

### 3-3 大きさ

大きさは、図6にあるように、若桜街道と比べ、湖山街道と鳥取南バイパスの「クレーン車必要」の看板の多さが顕著に表れる結果となった。

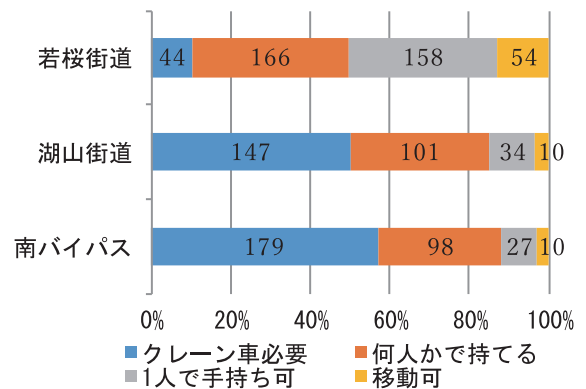


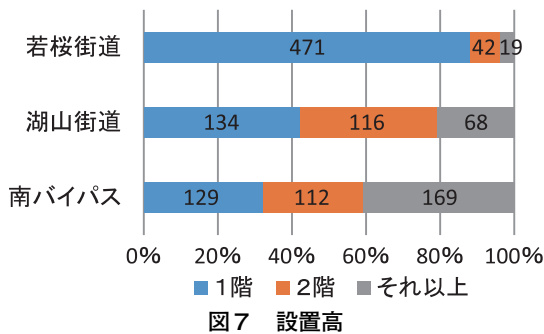
図6 大きさ

### 3-4 設置高

看板が設置されている高さを「1階」、「2階」、「それ以上」の3種類に分けた。若桜街道の結果は、1階までの高さにある看板が全体の88%、2階までの高さは8%、それ以上が4%と1階が圧倒的に多い結果になった。湖山街道は1階が42%、2階が37%、それ以上が21%と

なった。若桜街道と比べ、3つの差があまり大きくなかった。南バイパスは1階が31%、2階が27%、それ以上が41%となった。

若桜街道、湖山街道、南バイパスの3つの大きな違いは利用者の交通手段である。鳥取駅からすぐ近くにある若桜街道は利用者の多くが歩行者である。そのため歩行者の目に付きやすい「1階」の高さに看板が設置されている。それに対し、湖山街道と南バイパスの利用者の多くは自動車に乗っている。そのため、自動車の中からも見える高さや、目印になるような高さである「2階」、「それ以上」の高さに看板が設置されている。湖山街道と南バイパスの2つの街道を比較した時、車線数の違いから、片側2車線の南バイパスの方が、1車線の湖山街道より自動車の通行量が多い。図7のグラフを見ると、南バイパスが圧倒的に「それ以上」の割合が高くなっている。3つのグラフを比べると、街道が新しくなり、ターゲットが自動車である街道ほど、「それ以上」が増加し、「1階」が減少していることが分かる。



### 3-5 メイン/サブ

この調査ではメインとは、建物自体についている中で最も目立つものとし、サブはその他のものとした(写真7)。看板が1つの店に1つしかない場合は、どのような形態であってもメインとして扱った。

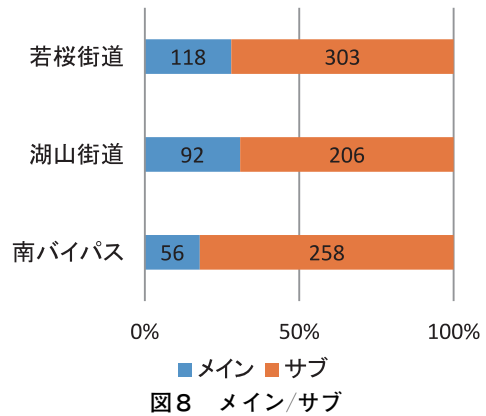
その結果、若桜街道はメイン28%、サブ72%となり、1件当たりのサブの数は約2.5個となった。若桜街道ではメインのみの店が比較的多かったが、1つの店でサブを多用しているところも多かった。そのため、サブの割合が多くなったと考えられる。

湖山街道はメイン31%、サブ69%となり、1件当たりのサブの数は約2.2個となった。これは、若桜街道とほぼ同じ比率であった。

鳥取南バイパスはメイン18%、サブ82%となり、1件当たりのサブの数は約4.6個となった。イオンやトリニティモール、自動車販売店では、サブの看板の数が非常に多いことが分かった。



写真7 メイン/サブの例(丸亀製麺)



### 3-6-1 色(文字色)

調査した色は、赤、黄色、緑、水色、紫、青、茶色、白、グレー、黒の全10色である。看板の文字の色と、その背景色のそれぞれに分けてのデータを集めた。なお、紫はどの街道でも0個であったため、除外している。また、グラフにおいて赤、白、黒については数値を示した。

看板の文字に主に使われている色で分類し調査したところ、若桜街道では、黒が最も多くなり、湖山街道では、白が最も多くなった。また南バイパスでは、湖山街道と同様に白の文字が多いという結果となった。

3つの街道を比較すると、グラフにばらつきはあるが、大きな差はみられなかった。どの街道も同じ傾向があり、白、黒の割合がどれも半分以上占めている。また、赤の割合も比較的高くなっている。文字色において、無彩色と赤色の割合が高いことが分かった。しかし、紫や水色の文字はほとんどみられなかった。



写真8 湖山街道の白文字の看板  
(カフェテラス カトレヤ)



写真9 肉類を扱う飲食店 (とんから亭)

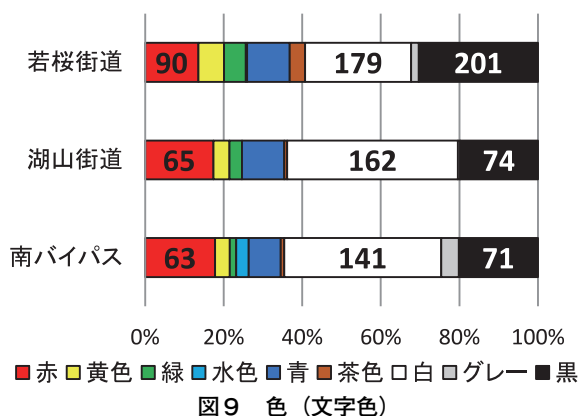


図9 色 (文字色)

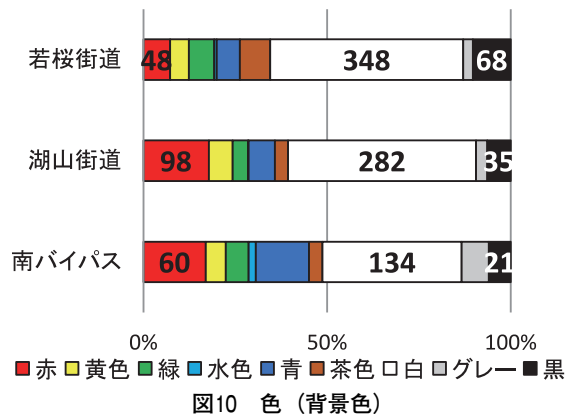


図10 色 (背景色)

### 3-6-2 色 (背景色)

看板の背景に主に使用されている色で分類し調査したところ、若桜街道では半分以上が白になり、湖山街道においても同様に白が最も多く、南バイパスでは、若桜街道、湖山街道よりは少ないが、やはり白が多いという結果になった。

3つの街道を比較すると、文字色のグラフと同様に、背景色のグラフは、いずれも多少のばらつきはあるものの大きな差はなかった。全体の傾向においては、白の割合がどの街道でも高く、文字色のグラフに比べて黒の割合が低い傾向がみられた。また、紫や水色の背景はほとんどみられなかった。

これらの色のグラフを通して、色が看板に影響すると思われる推論を示す。文字色、背景色においても赤の割合が高い理由として、特に肉類を扱う飲食店が赤色を好んで使用していたことが挙げられる。顧客からみて、赤色が肉類のイメージを連想させることを狙ってのことだと考えられる。

### 3-7 電飾の有無

この調査ではライト付きの看板、ネオン管が付いた看板、電光掲示板を電飾のある看板とした。ライト付きの看板とは、看板の周囲、またはその内部に看板を照らすための電灯が設置されているものである。また、ネオン管は、看板の文字や模様などに利用されており、様々な色で発光する。電光掲示板は、光るだけでなく、面上に配列した電球の点滅によって文字や図形を表示する看板であるため、より多くの情報を発信することができる。以上のような看板が、調査対象である3つの街道においてどの程度の割合で設置されているのかを調査した。

若桜街道では、電飾ありの看板が16%、電飾なしの看板が84%であった。電飾なしが8割以上という結果になり、若桜街道では電飾のある看板が非常に少ないということが分かった。

湖山街道では、電飾ありの看板が43%、電飾なしの看板が57%という結果になった。電飾なしの看板の方が14ポイント多いという結果であったが、若桜街道よりは電飾ありの看板の割合が多いということが分かった。

南バイパスでは、電飾ありの看板が43%、電飾なしの看板が57%であった。これは、湖山街道と全く同じ結果である。湖山街道と南バイパスは、今回調査した3つの街道の中で、交通量が多く、街灯が少ないという点で共通している。このことが、2つの街道で電飾の有無の比

率が同じになったことに関係しているのではないかと考えられる。

以上3つの街道の調査結果を比較してみると、図11のグラフのようになった。若桜街道と他2つの街道を比較してみると、顕著な相違が見られる。若桜街道では、電飾がない看板が圧倒的に多いということが分かった。

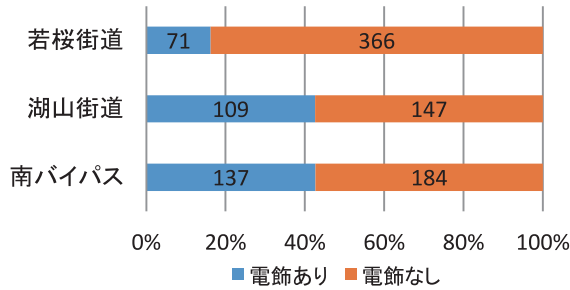


図11 電飾の有無

### 3-8 言語の種類

言語の種類は日本語、英語と、フランス語やスペイン語などのその他の言語に分類した。調査の結果、若桜街道では日本語が85%、英語が13%、その他の言語が2%となった。日本語で書かれた看板が圧倒的に多いことが分かる。

湖山街道では、日本語が80%、英語が19%、その他の言語が1%となった。若桜街道と同様に、日本語の割合が最も高いものの、若桜街道よりも6%ほど英語が増加していることが分かる。

鳥取南バイパスでは、日本語が61%、英語が25%、造語が7%、その他の言語が7%となった。若桜街道、湖山街道と比べ、日本語の割合はかなり減っていることが分かった。しかし反対に、英語の割合は増加し、他の街道にはなかった造語もいくつか見られた。

3つの結果を比べると、若桜街道では日本語の割合が多いが、湖山街道、鳥取南バイパスというように、街道が新しくなっていくにつれて、英語の割合が増えていることが分かった。また、どの街道においても日本語、英語だけでなく、フランス語、スペイン語、ハワイ語といった、多種多様な言語が使われてきているということが分かった。



写真10 ハワイ語を使用した看板 (Waioli)

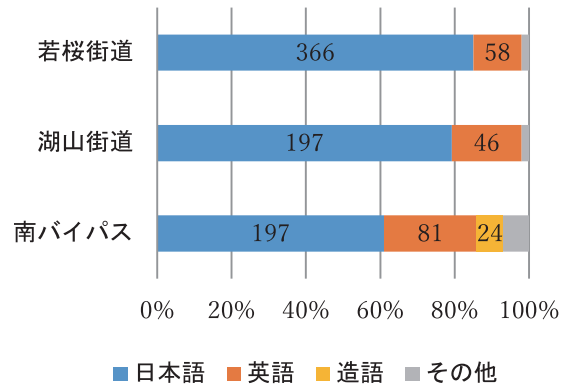


図12 言語の種類

### 3-9 文字の種類

文字の種類はひらがな、カタカナ、漢字、ローマ字、アルファベットに分類した。調査の結果、若桜街道ではひらがなが18%、カタカナが25%、漢字が37%、ローマ字が4%、アルファベットが16%となった。昔からの店が多い若桜街道ではアルファベットの割合が少なく、漢字の割合がかなり多くなっていることが分かった。

湖山街道では、ひらがなが15%、カタカナが25%、漢字が26%、アルファベットが31%、ローマ字が3%となった。このアルファベットの割合から、湖山街道は若桜街道よりも新しくできた街道のため、現代風の店が多くなり、看板もアルファベットを使用した店が増加しているのではないかと考えられた。

鳥取南バイパスでは、ひらがなが11%、カタカナが18%、漢字が30%、ローマ字が9%、アルファベットが32%となった。ローマ字の割合が3つの街道の中で最も多くなったが、アルファベットの割合は湖山街道とほぼ変わらない結果となった。

3つの結果を比べてみると、街道ができた年代が新しい湖山街道と鳥取南バイパスではあまり傾向は変わらず、最も古い街道である若桜街道と比べると、アルファベットの割合が多くなっていることが分かった。また、3つの街道とも、漢字の割合が比較的高くなっていることが分かった。

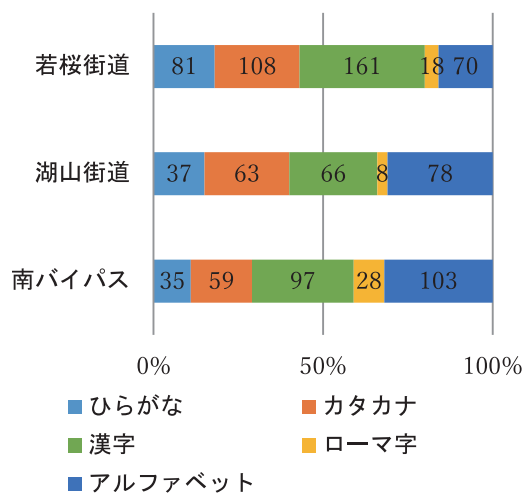


図13 文字の種類

### 3-10 書体

書体は、明朝体、ゴシック体、丸ゴシック体、手書き風の4つに大きく分けた。明朝体とは、漢字の楷書をベースにして生まれた書体で、特徴として横画の右端に筆抑えを簡略化させたとされる「うろこ」と呼ばれる装飾がついている。ゴシック体とは、すべての字画を同じ太さでデザインした書体である。丸ゴシック体とは、ゴシック体の角を丸めた書体である。手書き風とは、ここでは手書き文字を思わせる軽くポップなイメージの書体に限らず、楷書や行書など書の基本となる書体や、江戸文字など伝統書体も含めて幅広く手書き風とした。

結果として、若桜街道では、ゴシック体と、手書き風の文字が多いことが分かった。湖山街道では、若桜街道に比べて、手書き風と丸ゴシック体が減少した分、ゴシック体が増加している。南バイパスでは、ゴシック体が8割近くを占めていた。

3つの街道を図14を見ながら比較してみると、若桜街道はゴシック体と手書き風が同じくらいの割合で高かったのに対して、湖山街道、南バイパスは、ゴシック体以外の書体よりもかなりの割合で高いということが分かった。ゴシック体は字画が直線的に単純化され、ほぼ水平垂直に整理されているために、視線の移動がスムーズであることに加え、字画の太さが均一であり、横画が細い明朝体に比べて文字が認識されやすいため、看板にも多く用いられていると思われる。また、手書き風も若桜街道、湖山街道、南バイパスの順に割合が減っていて、調査した4つの書体の中では変化が顕著に表れていた。

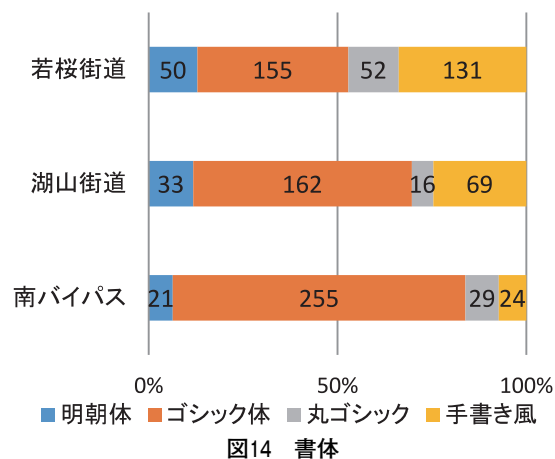


図14 書体

### 3-11 ロゴの有無

ロゴとは、会社独自のデザインが施された文字のことである。見た人の印象に残りやすいという特徴を持っており、主に店名や商品名などに使用されている。反対に、明朝体やゴシック体などの既存の書体は、会社オリジナルのデザインが施された文字ではないため、ロゴとすることはできない。よって、これを使用した看板は、ロゴのない看板となる。このように、看板にロゴが使用されているかどうかを3つの街道で調査した。

若桜街道では、ロゴありの看板が19%、ロゴなしの看板が81%となった。ロゴなしの看板が全体の8割を占めている。若桜街道の多くの店舗が、ロゴではなく、既存のフォントで店名などを看板に記していることが分かった。

湖山街道では、ロゴありの看板が56%、ロゴなしの看板が44%となった。ロゴのある看板が半分以上という結果になり、若桜街道と比べるとロゴのある看板が多いことが分かった。

南バイパスでは、ロゴありの看板が50%、ロゴなしの看板が50%となった。ロゴありの看板とロゴなしの看板の数はほぼ同じという結果が得られた。

以上3つの調査結果を比べると、図15のようになった。若桜街道では、ロゴが使用されている看板が非常に少なく、湖山街道、南バイパスではロゴのある看板が多いということが分かる。

若桜街道は、個人店の割合が多く、湖山街道、南バイパスは、個人店よりもチェーン店の方が多いため、この結果に関連しているのではないかと考えられる。つまり、街道の個人店・チェーン店の比率によって、ロゴの有無の比率も変化してくると推測できるのである。



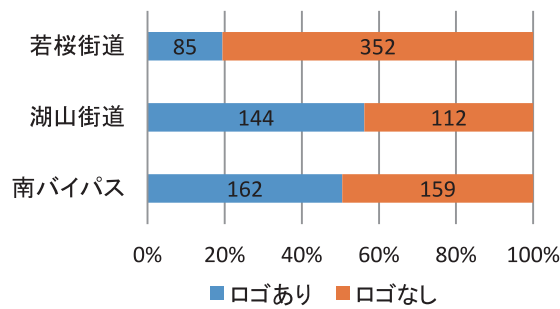


図15 ロゴの有無

### 3-12 老朽化の有無

看板を見て、老朽化しているか否かを分類した。目立った汚れが見られる、切り文字の一部が欠けているなどの破損がある、色が褪せている、塗料の剥離が見られるなどといった看板を老朽化していると判断した。

若桜街道では、老朽化している看板が13%、老朽化していない看板が87%だった。若桜街道のほとんどの看板が老朽化していないことが分かった。しかし、空き店舗の看板は長年放置されており、老朽化が激しいように見えた。湖山街道では、老朽化している看板が10%、老朽化していない看板が90%だった。湖山街道の看板は若桜街道とほぼ同じで、9割が老朽化していないという結果になった。数値としては若桜街道とほぼ変わらない。南バイパスでは、老朽化している看板が12%、老朽化していない看板が88%だった。南バイパスでも、若桜街道、湖山街道と同様の結果が得られた。

3つの街道を比較すると、図16のようになった。全ての街道で、比率がほぼ同じという結果であった。違いは、数%しかない。街道の成立年代から考えると古いほど経年劣化が進み、老朽化している看板の割合も増えるように推測できるが、調査した3つの街道の中で、最も歴史のある若桜街道では、老朽化していない看板の割合が9割で、湖山街道、南バイパスとほぼ同じだった。後にも述べるが、この結果には、アーケードの有無といった看板の設置条件が関係していると考えられる。

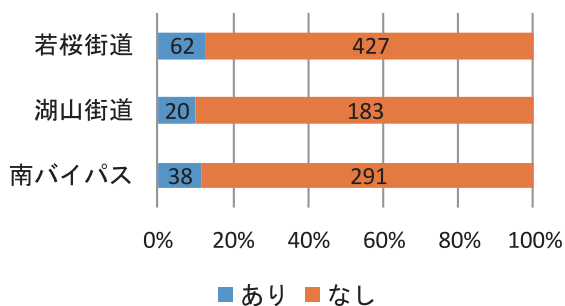


図16 老朽化の有無

### 4-1 「個人店/チェーン店」、「ロゴの有無」「メイン/サブ」の相関関係

「個人店/チェーン店」「ロゴの有無」「メイン/サブ」の調査結果からみられた相関関係について説明する。この3つの調査結果より、若桜街道では個人店が多く、ロゴが使用された看板が少なく、サブの看板が多いことが分かった。反対に湖山街道ではチェーン店が多く、ロゴが使用された看板、メインの看板が多いことが分かった。若桜街道と湖山街道が対照的な結果になった一方で、南バイパスでは、チェーン店は多いが、看板のロゴの有無に差は出ず、サブの看板が多いという結果になった。

若桜街道と湖山街道の結果から、チェーン店の看板の多くにはロゴが使用されているため、個人店の多い若桜街道ではロゴのある看板が少なく、チェーン店が多い湖山街道の看板にはロゴが多いという結果になったと考えられる。

しかし一方で、湖山街道と同じくチェーン店の多い南バイパスでロゴありの看板となしの看板の数がほぼ同じになった理由は、ロゴを使用している店舗が少ない、あるいは既存のフォントを使用したサブの看板を多く出しているという要因があるのではないかと考えられる。データより、南バイパスではサブの看板が、3つの街道の中で最も多くなっている。その為、ロゴの使用率が下がったのではないかと推察出来る。



写真11 南バイパスのサブを多用した看板（タイヤ館）

### 4-2 「大きさ」「設置高」「書体」の相関関係

「大きさ」「設置高」「書体」の調査結果からみられた相関関係について説明する。この3つの項目は、若桜街道の調査結果と、湖山街道・南バイパスの調査結果が対照的になっている。若桜街道では、小さいサイズで、「1階」の高さに設置されている、「ゴシック体」または「手書き風」の文字の看板が多い。一方で、湖山街道、

南バイパスの2つの街道では、大きいサイズで、「2階以上」の高さに設置されており、若桜街道より「ゴシック体」表記の看板が多い結果になった。

これは、街道における「ターゲットの違い」が表れていると考えられる。若桜街道では主に歩行者をターゲットにしているため、小さいサイズ、高さが低い看板の割合が多くなっており、また、歩行者が近くでじっくり見ることができる「手書き風」の文字の割合が高くなっている。反対に、湖山街道、南バイパスは主にドライバーをターゲットにしているため、遠くからでも見ることが出来るよう、大きなサイズで、背の高い看板が多くなっている。さらに、ドライバーからでも目につきやすく、看板が汚れても文字が認識しやすいゴシック体が書体として多く使われていると考えられる。



写真12 歩行者をターゲットにした看板  
(農楽ttoria山猫軒)



写真13 ドライバーをターゲットにした看板  
(旭タクシー観光バス)

照的になっている。若桜街道は、日本語やひらがなを用いた看板が多いのに対して、湖山街道、南バイパスでは、英語やアルファベットを用いた看板が多いという結果になった。

これは、街道における年代の違いが表れていると考えられる。3つの街道の中で最も古い若桜街道では、日本語とひらがなの割合が高く、反対に、比較的新しい街道である湖山街道、南バイパスで、英語とアルファベットの割合が高くなったのは、新しい街道の方が最近のお店が多く、看板も現代風のものが多いためだと考えられる。



写真14 英語、アルファベットの南バイパスの看板  
(SPORTS DEPO、ゴルフ5)



写真15 日本語とひらがなの若桜街道の看板  
(おしゃれの店 なかしま化粧品店)



写真16 英語とアルファベットの湖山街道の看板  
(MITSUBISHI MOTORS)

#### 4-3 「言語の種類」「文字の種類」の相関関係

「言語の種類」「文字の種類」の調査結果からみられた相関関係について説明する。この2つの項目も、若桜街道の調査結果と、湖山街道・南バイパスの調査結果が対

#### 4-4 「電飾の有無」「老朽化の有無」の相関関係

「電飾の有無」「老朽化の有無」の調査結果からみられた相関関係について説明する。若桜街道では、電飾付きの看板が少なかったが、反対に、湖山街道、南バイパスでは、電飾のある看板が多いという結果であった。「老朽化の有無」では、どの街道にも差がみられなかった。

この2つの項目の結果には、街道の「アーケードの有無」が関係していることが考えられる。「電飾の有無」に関して、若桜街道ではアーケードに蛍光灯がついているため、電飾を必要としない看板が多くなった。そして、湖山街道と南バイパスでは電飾が無い看板の方が多いが、街灯が少ないため、若桜街道よりは電飾付きの看板が多いという結果になったのではないかと考えられる。

「老朽化の有無」からは、成立年代の差があるにも関わらず、老朽化に差がみられなかった理由として、以下のことが考えられる。若桜街道はアーケードにより、直接雨や日光の影響を受けにくく、また看板が手の届く高さのものが多くので手入れがしやすい。対して湖山街道や南バイパスは雨風の影響をじかに受け、さらに、多くの看板が手の届かない高さにあり頻繁に手入れするのが難しいのではないかと推察出来る。



写真17 湖山街道の電飾付きの看板  
(ほっかほっか亭)



写真18 若桜街道のアーケード内の看板  
(御きもの処 橋尾)

#### 4-5 まとめ・考察

ここからは今までに述べた相関関係のまとめと、「色」についての考察を述べる。調査を通して、若桜街道の結果、湖山街道・南バイパスの結果の違いがはっきりと表れた項目がいくつかみられた。主に「個人店/チェーン店」「大きさ」「言語の種類」「文字の種類」「電飾の有無」からみることが出来る。これらの結果には、店舗が建てられた年代と、ターゲットの違いが影響していることが分かった。

店舗が建てられた年代の差によって生じる看板の違いは、「言語の種類」「文字の種類」において顕著にみられた。一方で、年代の差により違いがみられるだろうと予想していた「老朽化の有無」においては、今回調査した街道の環境の違いにより、結果に違いはみられなかった。

異なるターゲットから生じる看板の違いは、「大きさ」「設置高」「書体」のデータにおいてみられた。ターゲットによって看板の特徴が異なることがはっきりと結果に表れた。

また、「色(背景色)」のデータ説明の際に触れたが、赤の割合が高い理由として、特に肉類を扱う飲食店が赤色を好んで使用していたことが挙げられている。顧客からみて、赤色が肉類のイメージを連想させることを狙ったことだと考えられる。色だけでイメージを連想させるという点においては、コンビニエンスストアのようなチェーン店であっても同じことがいえる。配色パターンを記憶させることで、色だけで何の店舗か理解する手助けになっているのだ。これは、看板の色が、個人の文字の理解度に関わらず、企業認識の一助になっているといえるだろう。



写真19 コンビニエンスストアの例  
(Family Mart)

#### 5 先行研究との比較

続いて、本調査結果を先行研究と比較し、推論を述べる。今回参考とした文献は、庄司博史氏、P・バックハ

ウス氏、F・マルクス氏による編著『日本の言語景観』（写真20）である。ここでは、その中の染谷裕子氏の「言語景観の中の看板表記とその地域差—小田急線沿線の実態調査報告—」、井上忠雄氏の「経済言語学から見た言語景観—過去と現在—」の2つの論文を取り上げる。

染谷裕子氏の「言語景観の中の看板表記とその地域差—小田急線沿線の実態調査報告—」によると、アルファベットは最もデザイン要素を持つ文字であると述べられている。そして、現代風の街並みのデザインを意識した商店街や、現代的な店舗デザインにより、アルファベット表記の看板は増加しているとされていた。これを踏まえて私たちの調査結果をみると、この論文と同様に、若桜街道、湖山街道、南バイパスと街道の年代が新しくなるにつれ、アルファベット表記が増加していることが分かった。

井上忠雄氏の「経済言語学から見た言語景観—過去と現在—」では、現代日本の言語景観は、漢字からカタカナに、カタカナからアルファベット表記になるとされており、若者向けの場所ではアルファベット表記は多く、漢字表記は少ないと記されていた。しかし、私たちの調査結果とは異なっており、全ての街道においてカタカナより漢字の方が多いという結果になった。

## 6 今後の課題

今回の調査を通して、私たちの立てた仮説や先行研究とは異なる結果が出た。今回の調査では時間が足りず行うことができなかったが、なぜ仮説や先行研究と異なる結果が出たのかを検証することが必要である。また、他地域の街道とも比較することによって、さらに新たな傾向を探してみたいと感じた。

### 参考文献

- ・国土地理院「地図・空中写真・地理調査」(<http://www.gsi.go.jp/tizu-kutyu.html>)
- ・Yahoo! JAPAN「Yahoo! 地図」(<https://map.yahoo.co.jp/maps#>)
- ・鳥取県「屋外広告物の規制/住まいまちづくり課/とりネット」(<https://www.pref.tottori.lg.jp/70123.htm>)
- ・鳥取市「鳥取市公式ウェブサイト：屋外広告物に関する規制について」(<http://www.city.tottori.lg.jp/www/contents/1192175053974/>)
- ・独立行政法人中小企業基盤整備機構「若桜街商店街 | がんばる商店街30選 | J-Net21 [中小企業ビジネス支援サイト]」([j-net21.smrj.go.jp/well/g\\_shoutengai30/entry/20.html](http://j-net21.smrj.go.jp/well/g_shoutengai30/entry/20.html))
- ・染谷裕子「言語景観の中の看板表記とその地域差—小田急線沿線の実態調査報告—」(庄司博史/P・バックハウス/F・マルクス編著『日本の言語景観』三元社、2009)

- ・井上史雄「経済言語学から見た言語景観—過去と現在—」(庄司博史/P・バックハウス/F・マルクス編著『日本の言語景観』三元社、2009)
- ・李舜炯「看板表記にみる現代韓国語の言語景観—大邱広域市を事例として—」(内山純蔵監修・中井精一/ダニエル・ロング編著『世界の言語景観—日本の言語景観—景色の中の言葉—』桂書房、2011)
- ・今和次郎『考現学—今和次郎集—第1巻』(ドメス出版、1971)